久保・長江中学校区の学校再編に係る山波小学校区地域説明会議事録

１　日　時　　令和５年３月２９日（水）　１８：００～１９：０５
２　場　所　　山波小学校体育館
３　出席者　　地域住民　　９名
　　教育委員会事務局　９名
　　佐藤教育長、川鰭教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長
　　三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、石川庶務課管理係長、
　　宮崎学校経営企画課企画振興係長、玉里庶務課管理係主任
４　進　行

担　当	内　容
教育長	18:00～ １　開会 ２　教育長挨拶 　皆さん、こんばんは。教育長の佐藤でございます。山波地域の皆様方には、この久保・長江中学校区の再編に係る説明会にお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、これまで地域の方から、対面での説明を早くしてもらいたいという要請もいただいておりました。我々とすれば、まずは保護者の方々に説明ということで、今日この場になりました。２５日が土堂地域、２８日が久保地域、明日が長江地域ということで、４つの地域を３月中にと進めているところです。 　皆様方ご存知のように、昨年の１１月２２日に議会と、育友会の役員の皆様に再編の説明会を始めさせていただきました。それ以降、大体ひと月に１回くらいの割合で、６小中学校の役員の皆様方と意見交換をさせていただき、一定程度の整理ができましたので、本日を迎えたところです。 　本日の説明ですけれども、皆様方には最初ということにはなりますが、１１月２２日に行った説明の内容とほぼ同様な内容で説明させていただこうと思っております。それからまた保護者の方の質問や意見もこれまでありました。それについての、市教育委員会の回答もお示ししながら、全体として約２時間、説明は４０分程度となりますが、進めさせていただきたいと思います。本日が有意義な会となりますことを祈念いたします。よろしくお願いいたします。 　事務局自己紹介
教育委員会事務局（司会）	それでは、はじめに資料の確認をします。
三浦学校経営企画課長	３　資料確認 　資料の確認と内容の説明を行います。 　まず、本日のレジメが１枚目に、次に本日の説明に使用するスライ

	ドを印刷したものがございます。 　左上に資料１とある資料をご覧ください。資料１は、各小学校の今後の児童数と学級数の見込みをお示しした資料であり、令和４年１１月２２日に育友会・ＰＴＡ役員の皆様を対象に行った説明会で、役員の皆様にもお配りしております。また、１１月２９日から３日間、オンラインで行いました保護者対象説明会に際して、全ての保護者の方々にお配りしております。 　左上に資料２とある資料をご覧ください。これは、学校再編の枠組みについて、複数のパターンを検討し、統合してできる新しい学校の児童生徒数、学級数の見込みを試算したものであり、資料１と同様、１１月２２日に育友会・ＰＴＡ役員の皆様を対象に行った説明会で役員の皆様にもお配りするとともに、１１月２９日からの保護者対象のオンライン説明会でも、全ての保護者の方々にお配りしております。 　右上に資料３とあるカラー刷りの資料ですが、再編してできる新しい学校と、尾道が目指す小中一貫教育校のイメージを表したパンフレットです。このパンフレットも、資料１・資料２と同様、１１月２２日に育友会・ＰＴＡ役員の皆様を対象に行った説明会で役員の皆様にもお配りするとともに、１１月２９日からの保護者対象のオンライン説明会で、全ての保護者の方々にお配りしております。 　資料４は、１１月２９日からの保護者対象オンライン説明会に参加された方々から、アンケートでいただきましたご質問に対し、回答を行ったものです。オンライン説明会に参加いただいた保護者は合計２２６人、参加率は２５％、提出されたアンケートの数は２６３通、提出率は２９％、そのうち記載があったものは、１８７通でした。この回答は、令和５年１月１０日に、全ての保護者にお配りするとともに、その回答を読まれての新たなご質問に対する回答、左側の数字の９１番から１０３番を加え、１月２４日に改めて、全ての保護者にお配りいたしました。 　なお、資料５は、アンケートでいただいたご質問を学校ごとに整理したものです。 　最後に、資料６は、１１月２２日に、育友会・ＰＴＡ役員の方々に再編案について説明して以降、役員の方々と月１回程度、定期的に意見交換会を実施してきましたが、その中で、教育委員会が目指している、令和７年４月統合、令和９年４月新校舎使用開始を目指す場合、どのようなことを、どのようなスケジュール感で進めていく必要があるか、ご質問があったことを受け、１月２４日の意見交換会にて、これまでに統合した学校の事例を参考に、今後のスケジュールの案をお示ししたものです。内容については、この後、説明いたします。
三浦学校経営企画課長	３　学校再編案の説明　１８：１０～ 　それでは、久保・長江中学校区の学校再編について、説明します。 　教育委員会は、久保・長江中学校区の学校再編について、昨年１１月２２日に育友会・ＰＴＡの役員の方々に提案を行い、全ての保護者の方を対象に、１１月２９日から１２月１日の３日間、オンライン説明会を、２月５日、しまなみ交流館にて、対面による説明会を開催し

	ました。また、育友会・ＰＴＡの役員の方々とは、１２月２６日、１月２４日、２月２０日の３回、再編案に係る意見交換会を行っています。 　本日は、地域の方々への説明会ですが、説明が遅くなりましたことを、まずはお詫びいたします。 　それでは、スライドに沿って説明します。 　この度提案した新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた、土台づくりのできる学校」を目指し、教育環境や、教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や、教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。
石川庶務課管理係長	本日ご説明する久保・長江中学校区の学校再編は、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化がきっかけとなっています。まずは、このことについて、振り返りを行い、状況の共有を行います。 　平成１５年度から平成２７年度までの取組状況です。 　当時の基本方針としては、現在地での耐震補強を掲げてまいりました。 　平成１５年度に簡易的な診断を経て、３小学校ともに耐震性がないことを確認しました。 　平成２１年度から平成２４年度にかけて詳細な耐震診断を行いました。結果、３小学校ともに低強度コンクリートが存在したため耐震補強は不可と判断しました。 　しかし、歴史的な建物であったため、免振工法など異なる工法を検討する中、平成２５年度ごろ施工可能な耐震補強の工法が見つかり平成２６年度から平成２７年度にかけて設計業務を行い、久保小学校、土堂小学校は耐震補強の設計が完了、長江小学校は、山際の特別教室棟は耐震補強不可、普通教室棟は耐震補強に加え、一部取り壊しが必要であると診断がでました。 　平成２８年度の検討では、平成２７年度の実施設計を受けて、久保小学校、土堂小学校は、現地で耐震補強、長江小学校は、山際に建つ特別教室棟は耐震補強不可のため、現地で改築+耐震補強という方針を持ち、あわせてこの先２０年以上使用していくことを想定し、老朽化が著しいことから大規模改修を行う必要があると考えました。 　工事施工にあたり、敷地までの進入路の狭い長江小学校への改築ができるか、敷地の狭い土堂小学校で児童が居ながらの工事ができるのか、また、久保小学校、土堂小学校校舎は築８０年を経過しており、８０年という文部科学省の指針を超える状況で継続的に使用ができるのか、など、課題を検討していましたが、広島市での土砂災害を受け、県内での土砂災害防止法の警戒区域、特別警戒区域の指定が進む中、当地区でも指定がありました。 　尾道市では、安全面を配慮し、土砂災害防止法に基づく、特別警戒区域、警戒区域内に新たな建物は建築しない方針をもっており、まずは長江小学校での改築に支障が生じました。

	結果、久保小学校、土堂小学校の方針は変わりませんが、長江小学校は敷地内での改築ができないため、別の敷地に改築せざるを得なくなりました。 検討を行う中で、別敷地での改築が必要であるが、周辺に広い土地がなく、適地が見当たらない状況が生じたところです。 また、土堂小学校についても、現在地での耐震補強において、工事中のグラウンドが確保できない状況であるため、施工が困難と判断し、平成３１年２月に土堂小学校育友会へ居ながら施工が困難であることを説明しております。 それぞれの課題に対して解決策が見当たらない状況となり、次の手段を模索していたのが、平成２９年度から平成３０年度の状況です。 そんな中、早急に安全確保を行いたいため、令和元年１１月に久保小学校は、山波小学校へ、長江小学校、土堂小学校は、栗原小学校へ転校した後、久保小学校敷地内に３小学校統合校を設立する案を提案しました。 この時点での基本方針は、現在地の耐震補強に課題が大きいことから、別の敷地での対応を検討せざるを得ない状況でした。 しかし、２度の転校は児童への負担が大きいことから関係者の反対があり、一旦、白紙撤回を行った経緯があります。 その後、関係者からの反対意見を踏まえて、令和２年度には、仮校舎への移転による安全確保を目指しています。 学校統合への理解が得られない中、統合と耐震化の問題を切り離して、まずは児童の安全確保を最優先とし、３小学校とも耐震性のない建物を未使用化とし、仮校舎への移転を検討しました。 候補地について、検討しましたが、学区内に大きな敷地はなく、久保・長江中学校をはじめ、閉校となった学校や千光寺公園グラウンドなどしかなく、仮校舎の建築を含め、中学校の敷地を利用した整備が必要となることから、今後は中学校を含めた整備を考えていることを提示し、令和２年度から３小学校に加え、久保中学校、長江中学校ＰＴＡ役員とも協議を開始しております。 保護者のみなさまの合意もあり、令和３年４月に久保小学校、長江小学校がそれぞれの中学校敷地に、令和３年９月に土堂小学校が千光寺公園グラウンドの仮校舎へ移転し、安全確保が完了しました。 令和３年９月以降は、将来の学校の在り方について、検討・協議を始めております。 ここまで、これまでの経緯を振り返りました。 以上の経緯を踏まえ、尾道市教育委員会は、今後の学校の在り方について、次の３点を基本的な考え方として検討を進めてまいりました。 まず、安全性の確保についてです。 学校施設を含め、公共施設は、利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わない方針であること。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と、土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。 次に、校舎の耐久性についてです。

三浦学校経営企画課長	文部科学省は、大規模改修を行った上で、８０年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わない方針であること。従って、久保小学校と、土堂小学校の校舎は、築８０年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。 そして、適正な学校規模の確保についてです。 尾道市教育委員会は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、１学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年１学級が継続し、土堂小学校は、今後、全学年が１学級となる見込みであること。また、長江中学校も、今後全学年が１学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も１学年複数学級を維持する見込みであり、令和７年度での学校再編は行わないと判断しました。 以上の考え方を踏まえ、学校再編案をお示ししました。 久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、１つの学校に統合します。山波小学校は、１つの学校として存続します。久保中学校と長江中学校は、１つの学校に統合します。この３つの学校は、小中一貫教育校とし、令和７年４月に開校、令和９年４月からは新しい校舎で学ぶことを目指します。 小中一貫教育校とは、学校の組織としては、従来通り、小学校と中学校それぞれが独立した学校ですが、小学校と中学校が目指す子供像を共有し、９年間を通した教育課程を編成して、系統的な教育を行う学校をいいます。これまで小学校と中学校に分かれていた学校教育をつなぎ、義務教育９年間を通して、１５歳の生徒に身につけさせたい力を実現できる環境を作ってまいります。 久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに建設します。また、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンド北側に建設します。いずれも令和９年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。 お示しした再編案とした理由についてですが、教育委員会は、平成２３年１２月に「尾道市小・中学校再編計画」を策定し、何より、子供たちにとってのよりよい教育環境を提供するため、複式学級を早期に解消し、１学年複数学級化を図ることといたしました。 これに対し、各校の児童生徒数と学級数の今後の見込みは、先ほど、説明しましたお手元の資料１に記載しています。 画面には、令和４年度、７年度、１０年度のデータを映しています。 山波小学校は、当面の間、全ての学年で複数学級が維持される見込みとなっています。 かっこ内の数字は、今後、学校選択制度を利用して各学年５人が入学したと想定しての合計の児童数を示しています。久保小学校については、児童数が減少傾向にあり、全学年１学級が継続する見込みで

	す。 　長江小学校についても、児童数は減少傾向にあり、全学年１学級が継続する見込みです。 　土堂小学校については、今後、児童数は減少傾向にあり、今後、全学年１学級となる見込みです。また、令和１０年度には、学校選択制度の利用による入学者を除く、校区から通う児童については、複式学級が生じる見込みです。 　また、久保中学校は、全学年で２学級規模が維持される見込みですが、長江中学校は、令和１１年度には全学年１学級規模となる見込みです。 　１学年複数学級のメリットについてですが、まず、クラス替えが可能となり、「人間関係の固定化につながらない」、「授業や行事などで、クラスごとに切磋琢磨できる」ということ。次に、小学校では、教科担任制による専門的な指導を実施しやすくなるということ。専科教員に加え、担任どうしで専門分野の授業を交換し、より専門性の高い授業を行うことが可能となります。また、１つの学年を、複数の教員が担当することにより、組織的な指導が可能となります。特に小学校において、複数の教員で多面的な児童理解を通した指導を行うことが可能となります。最後に、中学校では、生徒が増えることにより、部活動の活性化につながることが期待されます。 　画面には、久保小学校・長江小学校・土堂小学校を統合した新しい小学校の児童数と学級数、久保中学校と長江中学校を統合校した新しい中学校の生徒数・学級数の見込みを映しています。詳しくは、資料２の４ページに記載しています。この試算では、当面の間、小学校は２学級規模、中学校は３学級規模となり、統合による子供の学びへの効果は大きいと考えています。なお、山波小学校は、当面、２学級規模が維持される見込みです。 　再編案をお示しするにあたって、その他の再編パターンについても検討いたしました。 　①は、資料２の１ページにあるように、久保小学校、山波小学校、久保中学校の３つの学校の統合。 　②は、資料２の２ページにあるように、長江小学校、土堂小学校、長江中学校の３つの学校の統合。 　③は、資料２の３ページにあるように、４つの小学校を統合するとともに、２つの中学校が統合し、「小中一貫教育校」となるパターン。 　以上の３つのパターンを検討しました。 　①と③の案は、１学年は２～３学級規模となりますが、山波小学校は、当面の間、１学年複数学級を維持できる見込みであることや、施設整備が大規模かつ複雑な構造となること、②の案は、小学校に加え、中学校も全学年が１学級となる見込みであり、近い将来、第２の学校再編が必要となる可能性が高いこと、以上の理由から、現在の再編案をお示しすることといたしました。 　資料３、新しい学校のイメージ図をお手元にお配りしています。 　ここでは、新しい学校と、尾道が目指す小中一貫教育校のイメージ

	をお示ししています。 　小中一貫教育の導入のねらいについて、資料の一部を拡大して画面に映します。小中一貫教育の導入のねらいは、義務教育９年間を連続した教育課程としてとらえ、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めることです。小中一貫教育校では、学校教育目標、目指す子ども像、育てたい資質・能力、学校のきまり等、多くの事柄が、小中共通となります。そのため、教職員は、９年間共通の指導方法で児童生徒に対応することが可能となり、児童生徒も９年間共通の授業の方法や学校のきまりで生活することができるようになります。目指す子ども像は、現段階では、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」と考えています。 　また、９年間を通した教育課程のイメージをお示ししています。土堂小学校は１２２年、久保小学校と山波小学校は１４９年、長江小学校は１１４年の歴史があります。これまで培ってきた学校文化や伝統を、学校全体で受け継ぎ、スクールプライド、学校への愛着や誇りを醸成してまいります。ふるさと学習は、総合的な学習の時間を中心に行い、現在、各小学校で行われている、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動も取り入れながら、新しい中学校区の伝統や歴史からの学びを、９年間という視点で系統的に再構成し、現在の中学校区を超えて展開していきます。 　また、新しい中学校区を単位として、１つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを導入してまいります。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者、地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。コミュニティ・スクールとして、地域の方の授業への参画、児童生徒への学習支援、学校と地域との合同行事等により、児童生徒の学習や体験活動の充実を図ることが期待できます。 　次に、提案した建設場所について、説明いたします。 　まずは、久保中学校と長江中学校の統合校について、現在の久保中学校の敷地と現在の長江中学校の敷地での比較を行い、現久保中学校敷地へ建設することとしました。理由は、グラウンド面積が、長江中学校と比較して久保中学校の方が大きく、部活動を行う中学校において適していることが挙げられます。校舎は、令和５年度から６年度にかけて設計を行います。そして、令和７年度から８年度までの２年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。 　次に、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の統合校について、旧久保小学校の敷地と現在の長江中学校の敷地での比較を行い、現在の長江中学校のグラウンド東側へ建設することとしました。なお、旧土堂小学校敷地、旧長江小学校敷地への建設も検討しましたが、敷地内や周囲の大半が土砂災害特別警戒区域に該当するため、新たな施設整備は行いません。現長江中学校の敷地へ統合校を建設することの理由は、グラウンドに校舎を新築したとしても、グラウンドの基準面積を満たすこと、校舎は５階建てで、屋内運動場を校舎内に整備、また、

	プールは新設することとし、必要な施設が全て揃います。普通教室は可能な限り２階から３階に整備し、児童の日常生活に影響が少なくなるよう配慮してまいります。旧久保小学校へ校舎を建設する場合、校舎は５階建てで、プールを屋上に整備するとともに、体育館は既存施設を活用することで、グラウンド基準面積を満たすことはできますが、令和７年度に、現長江中学校の敷地でいったん学び、校舎新築後、令和９年度に、再度移転する必要があることから、児童の負担が大きく、好ましい状況ではないと判断いたしました。校舎は、令和５年度から６年度にかけて設計を行います。そして、令和７年度から８年度までの２年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和９年４月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和９年度から１０年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和１１年度からの使用をめざします。 　さて、先ほども説明しましたが、昨年１１月２９日から３日間行った保護者対象のオンライン説明会の後、アンケートによりいただいた多数のご質問に対し、資料４にあります通り、教育委員会としての回答を全ての保護者にお配りいたしました。また、回答を読まれての、新たなご質問の提出をお願いし、改めて全ての保護者に回答をお配りしました。 　繰り返しになりますが、アンケートでは、関係する６つの全ての学校から、「通学対策・通学支援について」、また、複数の学校から、「小中一貫教育校の仕組みや教育内容について」、「新設小学校、中学校の開校時期と校舎の新築時期について」、「今後の協議方法やそのスケジュールについて」、「開校準備、校名、校歌、校章、制服等の検討について」、「統合にかかわる子供のケアについて」、ご意見やご質問をいただきました。 　また、山波小学校、久保中学校の保護者の方からは、新しい中学校の校舎の位置についてご意見をいただきました。 　回答については、資料４をご覧ください。 　関係する全ての学校からいただいた「通学対策・通学支援について」についてですが、現在、久保中学校への通学は、山波地域の生徒を対象に、路線バスを活用した３分の１の補助を行っています。現在、久保中学校では自転車通学が認められていませんが、長江中学校では、２㎞を超える生徒について認めており、新しい中学校ではどのようなあり方が相応しいのか、検討をしていく必要があると考えています。 　最後に、今後のスケジュールについて説明します。お手元の資料６をごらんください。 　この資料は、育友会・ＰＴＡ役員との意見交換会にて、令和７年４月の開校、令和９年４月の新校舎使用開始を目指す場合、どのようなことを、どのようなスケジュールで進めていく必要があるか、ご質問があったことを受け、お示ししたものです。進捗の状況によっては、幾らか変更があるかも知れません。おおよそのスケジュールであることをご了解ください。

	まず、資料の一番上の枠「児童・生徒」の欄ですが、統合１年前より、関係する６つの学校で、交流事業を実施してまいります。また、久保中学校は令和６年度末に閉校式、令和７年４月から、統合中学校へ通学します。そして、令和８年度末には中学校の新校舎が完成し、令和９年４月から新校舎での学習を開始します。 次に、教育委員会は、令和７年４月開校、令和９年４月新校舎使用開始とするためには、令和５年の９月議会で、校舎の設計等に係わる補正予算の議決を、議会にお願いする必要があります。また、令和７年４月より新校舎を建設、令和９年４月以降、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎の解体、長江中学校屋内運動場の解体等を行う予定としています。 次に、教育委員会と学校は、統合の方向性が決まりましたら、学校教育目標や、９年間を通した教育課程等、小中一貫教育校の柱となる部分について、具体的に検討を行ってまいります。 次に、開校準備委員会、これは、教育委員会、学校、保護者、地域がひとつになって、統合に向けた様々な課題について検討していく組織ですが、統合の方向性が決まった後、できるだけ早期に設置します。検討を行うのは、校名、校章、校歌、通学方法、通学路の安全確保のための対策、制服、体操服、通学かばん等の学校規定品、ＰＴＡ組織、開校式等についてです。これまでに統合した学校では、課題ごとに部会を設け、検討を行っています。 次に、閉校事業実行委員会については、現在の学校ごとに、地域、保護者、教育委員会、学校で、閉校事業について検討していきます。過去の例では、市が財政的な支援を行いながら、閉校式の実施、記念誌の作成などを行われています。 最後に、学校運営協議会についてですが、先ほども説明しました通り、中学校区を単位として、１つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとすることを計画しています。 長くなりましたが、以上で説明を終わります。 この後、ご意見やご質問をお受けいたします。宜しくお願いいたします。 ４　質疑応答　１８：４１～
教育委員会事務局（司会）	教育委員会からの説明は以上になります。教育委員会事務局の説明に対して、質疑を受けたいと思います。
住民１	ここに通っている親である。保護者の説明会に出る機会がなく、この場に来させていただいた。プラン自体に特に意見はない。ただ、保護者として一番気がかりなのは、通学の面だと思っている。今、私が住んでいるのは桜木の丘、オートバックスからもう少し東側、オートバックスがあって、その上に団地ができている。今お話があった、山波小学校、今後、２学級が維持できる、その多くは、桜木の丘という団地ができているからだと思っている。今後、久保中学校へ桜木の丘から通う中学生がどんどん増えていく。毎朝、私は、子供会の地区長をしており、通学時、声かけをするため、立っている。太田橋バス停

	から、中学生が数名集まって、バスで行っている。バスには、一般の方も乗っている。定数は４０名くらいだと思うが、桜木の丘は今免北地区だが、山波小３００人くらいいる中で、今免北地区は約１００名、これを３学年で割ると、５０人、この５０人が今免バス停からバスに乗ると、混雑するのではないかと思っている。そういったところの対策を、実際目で見て感じ取っていただけたらと思う。また、自分の住んでいるところとは関係がないが、長江中学校に小学校ができるということで、通学路が不安だ。石見銀山街道は、狭い道である。バスが離合するのも、なかなか大変であり、全国でもニュースになっているのをテレビで見たことがある。そういった面も考えると、授業は素晴らしいと思うが、９年間を通して、１５歳の時に、立派な大人になる準備ができるプランというのは素晴らしいとは思うが、それよりもまず、元気に通えるということが一番大事だと思っている。また、一年間の行事のことを考えた時に、参観日や運動会で、車で皆さん来られると思う。渋滞になったりする。雨の日に迎えに行くときに、山波小学校に行くところも、踏切が渋滞する。そういったことも考えて、対策が必要なのではないか、と素人としても思う。通学路の安全対策、スクールバスなどの検討をしていただけたらと思う。
三浦学校経営企画課長	ご意見ありがとうございました。これまでも、保護者の方々の説明会、地域の方々の説明会を行ってきて、本日は地域の方々への説明会３日目となるが、やはり、保護者の方々や地域で見守りをしてくださっている方の最大の不安事は、通学の安全であると感じている。我々としても、どのような在り方がよいのか、真摯に検討していきたいと思っている。今免の子供たち、今免以外の子供たちもたくさんが、路線バスを利用して通学をしているが、どういった在り方がよいのかは、今後検討させていただくとともに、自転車通学はどうなのだろうかと、自転車通学は危ないという議論もあるだろうが、今後、開校準備委員会の中で、保護者の方々、地域の方々とも、意見を交換していきたいと考えている。また、長江通りについても、先般、土堂地域の説明会を行う中で、大変不安であるとの意見をいただいた。我々も実際に歩いてみて、保護者の不安も理解できる。これまでも、保護者の方々、地域の方々が、学校を通して、ここが不安だといった意見を集約して、あそこは、県道になるので、県や警察と連携する中で、具体を一つあげると、グリーンベルトの設置などの対策を行っていただいたが、今後も、保護者の方々、地域の方々との連携の中で、路線バスの活用も検討を行いながら、検討を行っていきたいと思う。また、参観日などの時の渋滞についても、ご不安があると思うし、実際そうしたことが生じる可能性があるが、ご意見として頂戴して、どのようなあり方がよいのか、考えていきたい。ありがとうございました。
住民２	山波小がこのままというのはよく分かったが、メリットはたくさん聞いたので、デメリットは何か教えてほしい。
三浦学校経営企	ありがとうございます。教育委員会がこの度のプランを説明したの

画課長	は、やはり、複数学級を維持するというのは、多くの同級生と触れ合う中で、自分とは異なる考え方に触れる中で、自分の考えを深めていく、また、コミュニケーションをする力を鍛えていくためには、複数の学級があった方が望ましいということで、今、デメリットというお尋ねでしたが、大きなデメリットはないものと考えている。
住民２	小さくてもいい。
三浦学校経営企画課長	統合ということになれば、通学の問題など、不安が増えるデメリットは考えられると思う。お答えになっているかどうか。
住民２	思っていた答えとは違ったが、私は青少年補導員をしたり、子供会の役員もしたりしたので、いかに子供が地域で育つかということを、よしと考えている。そういったことが見えなくなるので、教育委員会が点々と話を変えて、いつどうなるのだろうか、という不安を保護者も地域も感じていたと思う。その中で、高須の子供が電車で土堂小へ通う姿を見ていたのに、途中で変えて、あれはどうなったのだろうかと思うし、小学校が競い合うようにやってきたのに、三つを一緒にして、地域の子供たちが、自分たちが育ってきたふるさと、地域性の良さを思ってきたのに、それがどうなったのか、という不安しかないので、不安がデメリットだと思う。地域の、土堂だったり、長江だったりは、何もしないと言われるが、どこかの企業に売られたりして、結局それが目的だったかと思われるようなことはなのか。
川鰭教育総務部長	今、跡地利用の観点のお話だったと思うが、土堂は、建物で言えば耐震性がない、土地言えば背後地に土砂法に基づく警戒区域や特別警戒区域が背後に迫っており、長江も同様ですが、その中で、どのような利用方法ができるのか、安全でないといけないし、当然、そうしたところに公共施設は整備しないという方針であるし、教育委員会だけでなく、市全体の問題であるし、地域の方はどのようにお考えなのか、整理をしながら、跡地を最大限有効に活用していただく、大事な土地なので、市全体で考えていきたい。
住民１	さっき私が言ったこととかぶるが、長江中学校の場所に長江小学校、今の久保中のところに久保小学校という話だったが、令和１０年までは表に載っていて、ある程度の数は読めるのだけど、土地的に、そこの子の数が増えるのか疑問である。長江中学校近辺は、新しく住宅地ができると思わないし、建てるのも大変だろう。そこに若い世代が来て、子供が通うということは難しいだろう。久保中学校区も同じで、あそこには旭丘団地がある。旭丘団地は、高齢者が多い状態であり、団地としても古い。市には関係ない話かもしれないが、あそこが団地になるのは難しい。と考えれば、数字の上ではかなりの子供が集まるが、遠方からの通学になるのだろう。それが本当に、近場に子供がいるのか、遠いところから通うことになるのではないのか、とすれば、通学の問題を早めに解決しないと不安がなくならないのではない

	のかと思う。先ほども出たが、各地域に文化があると思う。山波でいえば、とんどとか、餅つき神事とか、神楽とか。それを他の地域の方々に押し付けることになるのではないか。逆もまたしかりではないかと思う。山波の地域で子供のころから見ていたとんどや神楽もあるのに、別の地域ではこういうものもあるのだと、それも勉強だと言われればそうなのかも知れないが、各地域の思い入れを持った子供たちがいる中で、統合するのも、子供のケアが必要ではないのかと思った。
小柳学校教育部長	学校再編の内容であるとか、教育内容であるとか、いろいろ意見をいただいている。学校再編については、尾道市はこれまで、瀬戸田地域や因島、最近では、北部地域ということで、美木原小学校ができている。どの地域も、地域に愛され、歴史ある学校だったが、私たちが学校再編を進めてきたのは、やはり、子供たちの学ぶ環境を、どのように整えていくのかを考えた時に、ある程度、人数や学級数があった方が、子供の学びが深まっていくのではないかということで、複数学級化を目指させていただいた。地域に苦渋の選択を強いたということもあるが、ご理解をいただいて、統合校があると考えている。今回の三つの小学校も、地域の方々は同じ思いをしていると考えている。しかし、人数が減少傾向にある中、ある程度の児童数や学級規模があった方が、児童の学びが深まるということで、今回、教育環境の整備ということで示させていただいた。教育内容については、当然、これまで作り上げてきたものもたくさんある、それらを強制することなく、地域でどのような学びにしていくのがよいのか、山波は今後も残るので、山波はそれほど変わらないと思うが、３つの小学校については、それぞれ歴史や文化があることから、どうやって折り混ぜていくのかは、３つの地域で議論していく必要があることだと思う。それと、今回、小中一貫教育校ということを打ち出させていただいているので、山波小学校と新しい小学校、地域での学びは異なるかもしれないが、子供たちが学ぶ内容はそろえていきたいと考えている。中学校に上がった時に、子供たちが同じ力をつけて中学校で学んでいけるような学校の体制、教職員の体制は、しっかりと先生方を交えた準備委員会で整えていきたい。通学対策についてもご不安の声をいただいた。山波地域の方々にとっては、久保中学校への通学への不安があるということを、保護者からも意見をいただいている。バス通学についてあったが、私たちもバスの乗車状況とか、桜木の丘の児童推計について、まだ調べていない。今後、地区ごとの乗車状況や児童生徒数についても、調査をして、子供たちが困ることなく、できるかぎり保護者の方々も安全安心だと思っていただけるよう、実態調査をさせていただいて、対策を考えていきたい。
	５　閉会（学校教育部長）
小柳学校教育部長	今日は本当にお忙しい中、山波小学校区の地域説明会ということで、久保長江中学校区の学校再編案の説明をさせていただき、その

	後、皆様からご質問や意見をいただきました。ありがとうございました。皆様方からは通学の問題、教育内容の問題、行事の問題、統廃合のメリット、デメリットについて伺いました。今、他の地域でも説明会を行っております。いただいた意見を今後精査して、保護者の方々と話をするなかで、方向性を検討してまいりたいと思います。小中一貫教育校構想ということで、尾道の学校教育をリードしていくことができる学校、子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校、子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土台作りのできる学校を、未来を担う子供たちのために強い思いを持って実現させたいと思っております。本日は、説明会にお集まりいただき、本当にありがとうございました。 ～19：05